

照明デザイナー 近田 玲子

Question : 最近 LED の照明器具が増えています。これによる照明デザインへの影響はありますか？

Answer

LEDを使う時の注意点

3.11以降、LEDは節電のシンボル光源となった。価格も下がり、屋内・外のあらゆる照明計画への採用が進んでいる。公共の建物や広場のLED化を進めているある自治体の関係者から、発注指示書に書くのは「使用光源はLEDとする。」だけと聞いた。そこで気になるのは、その節電効果ばかりに関心が向いて、眩しさや照明環境の快適さへの関心が抜け落ちていないかである。例えば照明方法は従来と同じでも、LED照明器具の性能についての指示が必要である。オフィスでLEDに替えたが、眩しくて居心地が悪いので見て欲しいなどの相談が寄せられたりもしている。ランプ寿命が10年以上と長いのに、数カ月で廃番になってしまう器具もあり、その選定に際しては慎重さが求められる。ランプ寿命が終わる10年後には全ての照明器具を取り替えないといけない事も起こりうからだ。

さらに光の質がとわれる時代へ

光の質を担保するには、これまで一般の人には馴染みのなかった、色温度（ケルビン＝K）、光束（ルーメン＝lm）、演色性（アール・エイ＝Ra）、寿命、についてのスペックを明確にすべきである。色温度とは光の色のことで、おおまかに電球色（3000K前後）、白色（4000K前後）、昼光色（6700K前後）などがある。色温度の数値が低くなるほど赤みがかかり、高くなるほど青っぽい。また明るさの指定は、ワットテージよりもルーメン数にした方が良い。電球色のランプは同じワットテージでもルーメン数が少ない。色の見え方を判断する演色性は、数値が高いほど色の見え方は良い。一般的にはRaが80以上あれば演色性が良いとされる。

こうした急激な技術の進歩に対応するためには、設計スペックには「実施時の予算の範囲内で、これまでよりも効率の高い器具が製造された場合には、器具指定を変更する。」との一文を入れておくのも有効である。

最後に、頭が痛いのは、LEDを使って安全で快適なエネルギー消費が少ない照明設計をしているにも関わらず、間引き点灯しないと「ムダ」とされる風潮である。いま、照明関係者にとっては乱世である。



ホワイト・ボード

■各地の活動を伝えたい

私たち景観デザイン支援機構は、景観にまつわる様々な情報の繋ぎ役をこの「景観文化」を通して行ってきました。今日本は大きく生まれ変わらなければならない状態にあり、これを機に私達は出来るだけ多くの風景、景観に関する皆様方の活動の告知に努めたいと思っています。幅広い皆様方の活動の情報を事務局までお寄せください。

■「景観文化」に対する質問をお寄せください

毎回、当「景観文化」をご愛読有り難うございます。私達編集委員は皆様方の景観に対する意見をこのホワイトボードも含めて取り上げていきたいと思っています。是非事務局までご意見をお寄せください。



□PPS Project for Public Spaces

15 号で、工藤さんが The Highline を紹介しておられ Best New Public Spaces となったと書かれています。私はイギリスのCABEを調べてきましたが、CABE を知った頃にこのPPSにも興味を持ちました。加藤源さんが訳された本があり、PPSのHPもあります。私より詳しい方もいるはずです。

注目点は、Project for Public Spaces というテーマそのものが第1。また、PPSがNPOであって都市計画コンサルタント業務をしていることが第2の点。アメリカの都市計画コンサルタントはNPOが多いようですが、PPSは公的空間に色々と提案を行い、これを業務としているようです。創立は 1975 年と書いてあります。提案の相手は行政や民間企業、そしてコミュニティに対する提案もするようです。これから調べたいと思っていますが、基本は簡単で安いコストの提案で大きな効果を上げるという姿勢だと聞いています。HPには The Highline のレビューも出ていました。好意的な評価がのっています。

公共的な空間 Public Space の改善については、日本のテーマであると思います。Project for Public Spaces を一つの業務フィールドと考えていくべきです。まさにアーバンデザインのターゲットです。NPOとして、地域、コミュニティへの提案をしていくということもあるのではと思いました。都市環境研究所としても、そういう展開ができれば…。

代表取締役 小出和郎

東京都文京区本郷 2-35-10

03-3814-1001 http://www.urdi.co.jp/

編集後記

地球温暖化にしては寒い日が続きます。豪雪で苦労されている人も多いでしょう。

原稿を頂いた皆さん有り難う。また「まちなみスケッチ展」ご苦労さんでした。発表の機会は参加の皆さんの励みにもなったと思います。

このところ景観コラムがないせいか編集もスムーズになりました。TDAサロンの充実や景観講座のまとめが話題になりますが、ホワイトボードの活用もよろしく願います。



2012-03-01

目次

- 表紙
- お茶の水 ニコライ堂
- ／（絵・文）安部 貞司
- 見開
- TDA NEWS
- 「TDAサロン」報告
- 「まちなみスケッチ展」報告
- ／高橋 徹
- ／八木 健一
- 見開
- ランドスケープ事情
- 「遠野は馬が駅前景観も再生する！」
- ／田瀬 理夫
- 裏表紙
- 景観文化Q & A
- 「景観形成エレメント」
- ／近田 玲子
- 裏表紙
- 景観ビジネス最前線
- ／㈱都市環境研究所
- 裏表紙
- ホワイト・ボード

景観文化

NPO法人 景観デザイン支援機構

けいかん・きこう

http://www.tda-j.or.jp



お茶の水 ニコライ堂

緑青色のドームと白壁が印象的なニコライ堂、その正式名称は「日本ハリスト正教会復活大聖堂」と言い、日本に正教を伝道したロシア人宣教師ニコライ氏の愛称で呼ばれている。建設当初（1891年・明治24年）の鐘楼は関東大震災（1923年・大正12年）で倒壊し6年後に再建された、本格的なビザンチン様式の教会堂として国の重要文化財に指定されている。日曜日の朝10時、神田駿河台に厳かな鐘の音が響きわたる。礼拝や大晦日にも鳴る、ニコライ堂の建物と鐘の音は神田の名物として多くの小説や音楽に登場し、映画の舞台ともなった。当時は駿河台の高台に位置しお茶の水界隈の景観に重要な位置を占めたが、今は、神田・お茶の水は再開発や周辺の建物は高層になり、学生の町からビジネス街に姿は大きく変容している。街の風景は変わっても街を見続けた鐘楼と鐘の音はともに町のランドマークとして変わる事のない「音の風景」と言える。

TDA正会員 安部 貞司

TDA NEWS

「TDAサロン」報告
TDA代表理事 高橋 徹

「まちなみスケッチ展」報告
TDA副代表理事 八木 健一

1月25日には今年最初のTDAサロンが開かれ、日本ナチュロック㈱社長の佐藤俊明氏をお迎えして活発な議論が交わされました。今後も景観産業の第一線で新素材・製品などを開発している実務者をゲストとし、TDA会員との交流を通して新たな空間創造の可能性を探る議論をしていきます。

また、1月18日(水)から23日(月)の6日間にわたって、品川区民ギャラリーで表記のスケッチ展が開催されました。



ランドスケープ事情



1

2012年1月25日(水)
第6期TDAサロン 第1回
「溶岩革命 ジュエリーから砂漠緑化まで」



佐藤 俊明 氏
日本ナチュロック㈱ 代表

溶岩パネルなど、ピオトープ型環境製品ナチュロックの開発で知られる佐藤氏は富士吉田の生まれである。昔からコンクリートの壁が富士山の景観を壊している現実がこの素材開発の契機となった。溶岩は多孔質である上、岩の隙間から多様な生物分布が生まれ、人の気持ちを癒すマイナスイオンを発生する。富士の樹海は溶岩の上にでき、三宅島は噴火後15年ですっかり緑の島になった。

日本の溶岩は全部、国立公園の土地の下にある。このため、原材料の確保が難しい。材料は世界中から調達しており、その活用について問い合わせも来る。三宅島村長からは溶岩活用を依頼される。溶岩は、手拾いで大きさを揃えて山ろくに運び、船で運搬している。フィリピンのピナツボ火山は白い溶岩、ジブチ(アフリカ)は国土の9割が火山である。北京、ドバイなどでの緑化プロジェクトに呼ばれる。海外では、富士山のネームバリューが大きいので、「富士山のナチュロック」としてブランド化したい。

国内では、都市河川の護岸デザインに多く用いられる。溶岩の粉を原料として石積型のデザインのシートでコンクリート面を覆う工法を取る。コンクリ面が大きくても、少しの

水気と上部に樹木などがあることで凹凸のある溶岩の上では多様な生物が生き、それが自然の緑を生む。

石を使った壁面緑化は美しい。放置しておけば、コケは自然に生えてくるし、草は絡みついてくる。渋谷川のコンクリ護岸の修景、高速道路の壁面緑化、目黒川の桜並木護岸、三島源平川でのランドワーク活動、麻布十番(三の橋あたり)の古川、横浜の大岡川、東京も立会川などで壁面緑化を行い、実績は増加している。愛知県の内山川では護岸に生物が付き、蜚が発生、市民団体の活動に繋がっている。今一番力を入れているのが四ッ谷駅、ホーム前のような壁の緑化で、2月半ばに完成するので期待している。

ゴムに溶岩粉をいれたプレスレットなど、ジュエリーも開発。遠赤外線効果やアロマオイルを入れてナチュロックジュエリーとして販売している。ハリウッドのスターにつけてもらい宣伝している。その他、野口健さんのネパールで学校建設プロジェクト(マナスル近く)に売り上げの3%を寄附する活動をしている。



壁面緑化と屋上緑化を表現する溶岩カー

『遠野は馬が駅前景観も再生する!!』

沿岸の被災直後の映像は、東京スカイツリーの展望台から見る首都圏の現在の姿と重なります。輸入建材で埋め尽くされた灰色のヒートアイランド(建材砂漠)の惨状です。米どころ東北の被災者が、白米だけのおにぎりとバナナで凌ぎ、コンビニ、ガソリンスタンドに行列していました。水系を軸とする環境系全体のバランス「関連地域の人々が、それぞれの安否を思いやるといった、社会的連帯や関連系の中に秘められている人間の生活の息づかい、いわば情意のひろがりや深さ」(斉藤一雄)をばらばらにしてきた半世紀を象徴するランドスケープです。

今も震災復興の後方支援本部がある遠野市の宿泊施設は満室が続いています。国道沿いの量販店の売り上げは震災前を大きく上回っているようです。

しかし、中心である駅前空洞化が進行し、長年進めてきたHOPE計画とその延長線にあるものも「日本のふるさと」を演出する表層の装飾に映ります。山間部は限界集落化しています。HOPEは、Housing with Proper Environmentと知りましたが、「地域固有の自然・文化・伝統などの環境(財産)を生かして、質の高い住居空間を整備し、良好な地域社会を形成～」と目的が掲げられていましたが、生業が伴わない「物」の陳列の印象です。遠野と東に隣接する沿岸の大槌や釜石などの地域固有の環境(財産)は馬(山)とサケ(川)とワカメ(海)とっていいでしょう。

この地域の水系最上流には数千haに及ぶ荒川高原牧場があり、近世から数百年にわたって

2

2012年1月18日(水)～23日(月)
「まちなみスケッチ展」



八木 健一
TDA 副代表理事

TDAが主催する「まちなみスケッチ塾」は毎月1回の開催で、昨年の10月で通算50回となりました。延べ参加者は約400名を数えますが、最近では10数名の常連メンバーに固定化する傾向が見られます。まちなみスケッチ塾のことは、2010年6月発行の「景観文化」第9号に特集を組んでいますが、作品も大分たまったことだし、新規のメンバーを増やすためにも、そろそろ展示会を開こうかと考えていた矢先、たまたま、品川区民ギャラリーの抽選に当たりました。

かなり広い会場なので70～80点の作品を募集しましたが、結果的には52点の応募となり、私の10点を加えて62点の展示としました。それでもまだスペースに余裕があるので、「景観文化」の1号から最新の15号までの表紙を展示しました。この表紙には毎回TDA会員の描いたスケッチを掲載して個性化を図るとともに、景観とスケッチの大切さをアピールしています。



個人的な見解ですが、私は「写真は記録、スケッチは記憶」と言っています。すなわち、

スケッチを描くということは、単なる風景の記録ではなく、その対象を深く観察することによって、いつまでも記憶に残ります。

また、このスケッチ塾の指導方針は芸術的に上手な絵を描くというより、対象とする風景の構造をしっかりと捉えて、正しい比率による画面構図の作成に重点を置いており、「眼を養い、手を練る」をスローガンとしています。

今回の出展者の中にはTDAが主催となる前の「風景スケッチ塾」の時代から参加している会員も数名いて、初期の頃から比べると格段の上達が見られます。

会期の初日夕方から、会場内で簡単なオープニングパーティを開き、TDA代表理事の高橋徹や曽根幸一顧問らとスケッチ塾メンバーとの交流も図られました。高橋代表理事からは、「このスケッチ展を通じて、身近にある美しい景観に多くの人が気づき、我々TDAの存在価値のアピールにも繋がることを期待する」という趣旨の挨拶をいただきました。



6日間の会期中には250名ほどの来場者がありました。大井町駅前にあるイトーヨーカドーの最上階という立地の良さもあって、買い物ついでに立ち寄るという近隣の方々もかなり見受けられましたが、出展者の旧友

という方が小学校以来初めてという出会いもありました。また、新たに数名の新規入会希望者もあって、それなりの成果はあったのではないかと、関係者一同は満足しています。



出展者たちからは、拙い絵でも額に入れると引き締まるし、他の人たちの作品と比較することによって自分の勉強にもなるという感想も聞かれました。

この場を借りて出展作品の紹介ができればよかったのですが、紙面が足りませんので、以下に出展者名と代表的な作品名だけを記載させていただきます。

- [出展者名と作品リスト]
- 安部貞司「赤坂プリンスホテル旧館」
- 井戸幸子「三菱一号館」+9点
- 金田紀美子「ミッドタウン檜町公園」+4点
- 鈴木昭好「ユリノキとドコモタワー」+6点
- 高橋良幸「井田埴めきの丘より」+6点
- 野中朋恵「五反田ふれあい水辺広場」+4点
- 花牟礼祐一「清水寺舞台」+4点
- 朴木将史「富岩運河環水公園」
- 萩谷知也「レインボーブリッジ」+3点
- 宮脇修「新宿御苑ブラタナス並木」+2点
- 横塚明美「芝離宮庭園」+4点
- 八木健一「旧歌舞伎座」+9点

田瀬 理夫 プランタゴ代表・農業生産法人ノース代表



「夏山冬里方式」の馬の放牧が行われてきました。'07年に『荒川高原牧場は、早池峰山周辺の準平原を成す高原の草地を利用しつつ、「遠野物語」の時代における地域の基幹産業として継続的に営まれてきた馬産の景観地で、(中略)わが国民の生活または生業を理解するうえで欠くことのできない文化的景観である』として重要文化的景観(文化財)に選定されました。

40年ほど前の航空写真と「現地」で、嘗ての馬農家の土地利用やインフラを克明にトレースし、新タイプの馬生産、有機農業、馬との生活を中軸とした「住宅・観光」事業を通して、流域最上流域からの環境再生や、住み主の暮らしを支えるしくみを構築する『馬付住宅プロジェクト』に'97年より参画しています。一時捨てられただけの土地には、今でも水が流れ、馬道が通っています。草木は伸び、山は荒れましたが人が馬と共に戻って来ればよいのです。景色のよいところに馬付住宅を建てれば、大いなる天然の緑囲のMeadowは復活します。これからの時代にふさわしい種の馬を導入し、育て、乗る。馬の堆肥で米、野菜をつくり、堆肥の熱エネルギーも利用して散居する。これでクラスターを形成し、馬の道に沿ってこのクラスターを2つ3つと増やしていく計画です。'00年パイロットハウス完成、'06年、一戸の馬付住宅(現代版曲り家)が試動し、今、十二支が一回りしました。馬場のオオヤマザクラの苗木は花が咲くほどになりました。一方で、遠野中心市街地の大量の空店舗を活用して、馬を中軸にすえ、若者が集い、街路に生業があふれ出るような方途を模索し続けています。